## 「清い目ですべてを 見たい |

聖なる純潔のなんと麗しいこ とか。しかし、純潔を愛徳か ら切り離してしまうと、聖な るものでも、神に喜ばれるも のでもなくなる。愛徳は成長 する種であって、純潔という 水に潤されて風味豊かな実を 結ぶ。愛徳がなければ純潔は 不毛である。この不毛の水 は、人々を泥沼や不潔な溜め 池にする。そして、そこから 傲慢という臭気が発散するの だ。(道119

確かに、対神徳である愛徳こそ、最高の徳です。しかし、貞潔は神ともともいたがしている。真潔を守るためにぜひとも潔を守るためにも関連を守るために、自が見えなくなる。「は神の霊に属する事柄を受け入がない。「コリント2・14」ことができない。

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る」(マタイ5・8)。この主の教えに励まされた今、清い目ですべてを見たいものです。教会はこの言葉を常に貞潔への招きとして受け取ってきました。聖ヨハネ・クリゾストムは、「一点の汚れもない清い心を持つ者、貞潔を愛する者は、健全な精神を保つ。神

を見るためこれほど必要な徳はない」(聖ヨハネ・クリソストモ)と 教えています。(神の朋友175)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/dailytext/ Kiyoi-Mede-subetewo-Mita-i/ (2025/11/21)